

# 果樹試験場成果発表課題 要約

## 1. 「YN26」の高品質果実生産について

---

(主任研究員 中谷章)

「YN26」の日焼け果対策として炭酸カルシウム剤(薬剤名:ホワイトコート)25倍の2回散布が有効である。また、7月上旬から収穫期まで比較的弱い水分ストレス(日没直後の葉の水ポテンシャル(以下、LWP)で $-0.8 \sim -1.1$ MPa程度)を維持することで、果実品質を高めることができる。

## 2. カンキツにおけるDNAマーカー利用について

---

(主査研究員 沼口孝司)

作物におけるDNAマーカー利用の重要性はますます高まりつつある。本課題では、カンキツにおける①県育成品種の県外ならびに国外流出抑止のための品種識別、②品種育成の年限短縮に向けた有用形質早期選抜を目的としたDNAマーカー利用の現状と、さらなる技術開発に向けた試験研究への取組について発表する。

## 3. 耐雨性に優れたカンキツ黒点病の防除対策

---

(副主査研究員 直川幸生)

ウンシュウミカンの黒点病に対して、マンゼブ剤(商品名:ジマンダイセン水和剤)400倍へのパラフィン系展着剤(商品名:アピオン-E)1,500倍の加用散布は慣行のマンゼブ剤600倍単用散布と比較して耐雨性が優れ、降雨状況に合わせて散布間隔を延長することで年間の防除回数を削減することができる。

## 4. ドローンを活用した病害虫防除技術の開発に向けた取組

---

(研究員 松山尚生)

カンキツ栽培において、防除時の身体への負担が特に大きい夏季(7~9月)に発生が問題となるミカンハダニ、ゴマダラカミキリに対し、ドローンによる高濃度少量散布を行い、防除効果を検討した。ミカンハダニに対しては2剤で、ゴマダラカミキリに対しては3剤で一定以上の効果が認められ、有効と考えられた。